

平成28年度 えびの市立真幸小学校 学校評価

I よく考え自ら学ぶ子

(4段階評価)

重点指導事項	自己評価			現状と課題、改善点			学校運営協議会の評価
	児童	保護者	教師	現状	課題	改善点	
1 学習指導の充実	2. 8	3. 2	3. 3	個に応じた指導に指導の充実を図り(少人数指導・習熟度別指導)、定着を目指している。また、2年生以上は課題テスト(年3回程度)を実施している。	一人一人の学習の理解度や取組に個人差があり、少人数指導・習熟度別指導の在り方や指導体制等の充実した取組について、工夫・改善の必要がある。	一人一人の実態を十分に把握し、個に応じた指導の在り方、指導体制について共通理解を図り、共通実践を行えるようにしていく。	3. 6
2 学習意欲の向上	2. 9	3	2. 6	「学習の約束」を年度当初配付し全職員で共通理解を図り、指導の徹底を図っている。また、教材研究を行い、毎時間の指導の充実を図っている。	「学習の約束」の徹底が十分に図られていない。教師自身の意識の高揚と子どもたちへの指導の徹底を図っていく必要がある。	「学習の約束」の見直しも含め、共通理解・共通実践が図られることにより、学習意欲の向上が期待できる。	3. 5
3 家庭学習の定着	3. 5	3. 2	2. 8	家庭訪問時に家庭学習ガイドブックを配付し、協力をお願いした。また、子どもたちへ具体的に指導を行い、家庭学習の充実を図った。	家庭学習の取組に個人差があり、その結果、学習の定着の差が生じている。個に応じた課題の与え方を工夫し意欲をもたせる。	学校での学習と家庭での学習が連動することにより、学力が定着する。個に応じた家庭学習の在り方の検討が必要である。	/
4 読書活動の推進	2. 8	3. 8	2. 8	読書タイム(読み聞かせ)を毎週1回設定し、読書貯金や読書ビンゴ等の工夫を行い、読書の推進を図っている。	読書をさせる時間を十分に確保できていない。週時程の工夫・改善が必要である。	限られた時間の中で読書の時間を確保できるように、週時程の工夫を行う必要がある。	

II 明るく思いやりのある子

重点指導事項	自己評価			現状と課題、改善点			学校運営協議会の評価
	児童	保護者	教師	現状	課題	改善点	
1 気持ちのよい挨拶	3. 2	3. 2	2. 5	あいさつ運動を全校的に取り組んだ成果が出てきているもの時と場に応じたあいさつが十分とは言えない。また、個人差も大きい。	元気よくあいさつできる子、そうではない子の二極化が見られる。担任の指導が大きい。特に上級生の	1の付く日を「あいさつ運動の日」と位置付けて実践してきて、定着化が図られた。質的な充実を図るために、実態に応じた工夫・改善が必要である。	3. 3
2 丁寧な言葉遣い	2. 9	3. 5	2. 5	一部の子ども達の中に、友だちの名前を呼捨てにしたり、傷つく言葉を言ったりすることがあるため、各学年の実態に応じて、日常指導や学級活動、道徳の指導の時間に関連的に指導を行っている。	「ちくちく言葉」「ふわふわ言葉」のことについて全校児童に対し指導を行ったが、子どもたちの言動を把握し、その場での指導を全職員でしっかりと行う必要がある。	各学年の実態に応じて全教育活動を通して、指導を充実・徹底させるとともに、参観日(12月)人権週間と関連を図り、参観授業を行い、子ども・保護者に対し啓発を行う。	3. 3

3 規範意識の定着	2. 9	3. 5	2. 8	年度当初に、真幸っ子生活ガイド20の約束を提示し、学校生活や休みの日の過ごし方について指導を行った。	規範意識が全体的に低調であり、集団、社会生活を送る上で、ルールを守ることの必要性を認識していない。	集団生活を営む上で必要不可欠であることの認識を各学年の実態に応じて、全校をあげて共通理解を図り共通の指導の徹底を図る必要がある。	3. 3
4 楽しく登校・下校	3	2. 8	3. 2	本校の本年度のスローガンである。元気に歩いて登校するという点については、保護者の送迎が多かった。	保護者に対し、自力登校の意義等について理解してもらい、協力をしてもらうとともに、子どもの意識を更に変えていく必要がある。	楽しくて安心して通え、過ごせる学校を目指し、今後も教育活動を推進していく。	3. 3

III 健康でねばり強くやりぬく子

重点指導事項	自己評価			現状と課題、改善点			学校運営協議会の評価
	児童	保護者	教師	現 状	課 題	改善点	
1 基本的な生活習慣の確立	2. 9	3. 2	3. 0	1日の始まりから下校するまで規則正しい学校生活を送れるように校時程の工夫を行うとともに、さわやかチェック（はんかち、ちり紙、つめ、名札）を行い、健康的な学校生活を送れるように継続して指導をしている。	さわやかチェックでは、個人差が大きく、忘れる子どもの多くは、忘れたことに対する意識が低い。家庭に呼びかけ、協力をお願いする必要がある。また、家庭での基本的な生活習慣が十分でない子どもの多くが、睡眠不足等により遅刻や欠席があった。	基本的な生活習慣が定着することにより、いきいきと家庭・学校生活を送り、健康的な生活につながるため、家庭への啓発活動を更に行う必要がある。	3. 5
2 運動の日常化	3. 2	2. 8	3. 2	学校では、朝の運動、体育の時間の指導、昼休みと元気に体を動かしている。学校外では、スポーツ少年団に入っている子どもも入っていない子どもの二極化となっている。	体を動かすことが好きな子どもたちが増え、始業前、昼休みは元気に遊んでいる子どもは増えてきている。学校外でも運動の日常化を更に推進していく必要がある。	生涯スポーツの観点に立った体育科指導の充実と個々の能力に応じた運動の楽しみ方を紹介する取り組みを行う。	3. 3
3 家庭での手伝い	2. 2	2. 6	2. 5	学校では、家族の中の一員として、手伝いを積極的に行うように指導を行っているが、まだ十分とは言えない。	学年の発達段階に応じて、各家庭に対し、具体的な啓発を行っておらず、定期的に少しずつできる手伝いを考えさせる必要がある。	家庭訪問や4月参観日での懇談時において、家庭でできる手伝いについて話題にしていくようにする。	

IV その他

重点指導事項	自己評価			現状と課題、改善点			学校運営協議会の評価
	児童	保護者	教師	現 状	課 題	改善点	
1 情報の発信・啓発		3. 2	3. 0	ホームページでは、学校の様子はその都度更新を行っているとともに、毎月発行している学校便りや保健便り等、学校の様子やお願い等を載せ、積極的に発信している。	全ての保護者の方が確実に見てもらっているか確認できていないが、保護者のニーズ等も考慮したものに工夫していく必要がある。	保護者のニーズやその時期に応じた話題を提供し充実したものに工夫していく必要がある。	3. 3
2 地域との連携・交流活動等		3. 2	3. 2	年間を通して、キャリア教育、体験活動等を積極的に活用しており、充実した取組が実践できている。	それぞれの活動の主体となる方々との連絡調整や学校としての意図をしっかりと伝え、活動をしていくことが重要である。	子どもたちの教育活動が更に充実したものになるように、子どもたちの実態に即した活動を積極的に取り入れていく必要がある。	3. 8
3 学校行事等の運営		3	3. 0	次年度の課題を踏まえ、授業時数等の調整を行い、本校の実態や特徴的なものを教育計画の中に組み込み特色ある教育活動を計画し実践している。	年度当初に立てた計画は予定通り実施することができた。	本校の教育的課題を踏まえ、特色ある教育活動を実践できるように、子どもたちや保護者、地域の方々に対し、開かれた学校を更に目指し取組んでいく。	3. 0
4 環境整備		3	3. 0	学校で行う毎時間の清掃活動、年3回実施しているPTA奉仕活動等を計画的に実施し、充実した環境整備を行っている。	安心・安全な学校施設を維持していくために毎月1回実施している安全点検を実施しているが、改善すべき箇所は速やかに対応できるようにしていく。	子どもが安心・安全な学校生活が過ごせるように、安全点検を充実させ、安全で美しい環境を整えていけるように計画的に進めていく。	3. 8